なかさと

発行所 中里村公民館
印刷所 十日町新聞社

就任の挨拶

村長 高橋幸作

村長 高橋

新年おめでとうございます。

旧臘二十五日に行われた村長選挙に於て、はからずも当選の榮を担いましたことは、村民各位の絶大なる御支援の賜物であつて唯々感激の外ありません。

因より浅学短才の私が識見力量ともに秀いで敏腕を以て知られた渡邊前村長の後を繼いで、果して村民の皆様の御期待に添え得るや否やを衷心ひそかに恐るゝものでありますが、一度誓つて就任致した以上は誠心誠意、全力を擧げて村政のために努力すべきことをこに御約束致します。本村は中里村として發足後未だ日なお浅く、水沢村との合併、即ち中部大同合併は現在の所暫定期間中に在るもので、村政の各方面に亘つての基礎的事項のみでも山積するものある外、将來の伸張發展の策として擧げられるものも五指を屈するに止まらぬのであります。幸に渡邊前村長の大きな政治力によつて、是等の案件が着々と基礎付けられ、或は軌道に乗せられつつあるので、今後これを繼承して所期の目的貫遂のために邁進することが、後繼者として負わされた私の責務であつて同時に全村民各位の要望に答えるゆいんでもあり、又前村長の遺志にも添うものと推察致すのであります。而してこれを具体的に擧ぐるならば、村政の基礎をなすものに屬するものとしては新農村建設五カ年計畫と町村合併五カ年計畫の二大方針が樹立せられてあります。これは村内の各機關、各階層等の全智全能を傾けて立案計画された教育文化、産業經濟、土木交通のあらゆる面に於ての根本的な施策とも言うべきもので、既に着手實施中のもので、本年は正にその第二年次に突入するものであります。現に将來の發展と、飛躍を約束するものとしての案件は所謂上越西線の實現、上越線の復線化、清津川總合開發問題等々何れ劣らぬ大問題であつて、何れも我が中里村にとつては至大の關係を有するものであるのみならず、而も我が中里村がその地位地勢の上から、重要な據点を占めているものでその主導的立場にある關係上その果すべき役割も蓋し大きなものがあり、本村を中心とする各關係町村住民の熱誠と協同の如何がその實現の可能と不可能に重大な影響をもたらすものとして大いに關心を持たれて居るのであります。これを思い彼を察するところ誠に中里村の前途は多事多難であつて、正に危急存亡の秋とも言うべき時期ではありますが、決して前途暗たんたるものではなく希望に輝き、理想に燃えるの多事多難であることを思つて緊褌一番皆さんと共に未曾有の難局に處して、粉骨碎身、村民の公僕としての責務を果さんことを念願し、村民各位の絶大なる御支援と御鞭韃とを切に希つて止みません。

年頭の辞

中里村公民館長 大島孝平

昨年は豊作に恵まれた喜びの年であつたが、年末に至つて渡邊村長の急逝により、村に一大暗影を投じたが、高橋幸作氏の村長就任により、中里村の政局安定をみることが出來、誠に御同慶に耐えません。

私は常に神を信じ、神を念ずるものでありますが、新しい年を迎え、今年もどうぞ人類社會の爲に幸福の來ますように、お祈り申し上げるものであります。

公民館事業の最終目的は明るい社會、住み良い郷土の建設と云う遠大の目標であり、此の目途のもとに努力はしているものの、祖先傳來の善習、悪習の集積であり、しかも敗戰日本の悪習も加わり、一朝一夕の早さでは建設出來ないのであります。

大島幸平氏

例えば嫁、姑の差別のない様な家庭が出來、村に旧來の封建思想が拂拭され、各種の集會等に楽々と自分の意見を述べられる様な機會が得られ、冠婚葬祭の簡素化が出來て、冗費を省き、生産振興に主力を注いで一家の幸福が豊になるならば半ばその目的は達しられるので、さゝやか乍らも其曙光を見出し、關係者が之に全力を注いでいる事は同慶に堪えない次第であります。

次に民生委員を承つてる關係上、社會福祉の事に就て皆様の御諒解を得度いと思います。

昨年の春岸總理大臣は、青年に希望し「かつての日本の様な強力國家の夢を捨てて、青年の情熱を福祉國家の出現に注ぎ、三悪（病気、貧乏、犯罪）を追放し最大多数の最大幸福を計ることが望ましい」と語つています。

終戰直後、政府は要保護者を国民總数の一割と見たが、幸にその數に至らないで内部混乱も僻け、道に一人の餓死者も出さないで濟んだと云う事は、國の制度と国民の努力の賜と云わねばならない。

昨年度中里村民生事業の一環である共同募金、赤十字社員、災害義えん金、靖國神社奉賛會、歳末たすけあい等の募集に關しては、區長並に婦人會に御依頼申し上げ、各位の多大なる御協賛を賜り、皆様の御温情は恵まれざる人々の厚生の御役に立ちつゝあります。

これからの社會は、自分が良くなる爲に人を排斥することでなくて、自分がよくならんが爲には、人も亦よくならなければならぬ。と云うことが必要であります。

村民各位の切なる御協力をお願いして年頭の辭と致します。

「新しい年をむかえて」

倉俣小六年 桑原保子

新しい年をむかえ、言いようのないうれしさで一ぱいだ。私達は、この四月から中學に入る。一生けんめいがんばり、小學校とおわかれしたい。

「よい六年生だつたなあ」と言われるように、來年も又そのつぎの年も、いつしようけんめいがんばろう。

小学校にも協力し、中学校ともいつしようけんめい協力し、よい學校をつくり住みよい村を作ろう。

初日に「今年も元氣で、たのしくくらせるように」といのろう。遠足に行つたこと、映畫を見たこと、學藝會、展覽會、かなしかつたこと、まだいろいろな思い出がある。中學校に行つても、大人になつても、わすれられない思い出もたくさんある。

あけましてお目出度うございます

なかさと編集委員会
石澤義郎
鈴木佐十郎
小柳定夫
樋口和一

一里塚

なぜ、新年がおめでたいのか。

一年三百六十五日無事に過ぎたのがめでたいのか、第一、一年間で地球が太陽のまわりを一周したのが、人間にとつてどんな意味があるのだろう。

こんな事を考えさせるのが、つまり新年というものらしい、暮らしに時々折り目をつけさせる、それが年の始めのよさだろう。などと思いながら「お正月」を見廻す。

◎おそなえ
圓満な安定した鏡モチをヨロコブしいた上に据えウラジロ、アラメをかざる。だい〳〵の上は、おかざりつけて、エビが代々腰の曲がるまで末長くと、のつかる。

海山の幸を、供えて生きる喜びをうたうのらしい。生を讃える新年の詩がここにある。

今も、この氣持で飾る人がどのくらい居るだろう。そう思つたら色々目につく。

◎トソ

かなしかつた事などはわすれ、たのしかつたことやうれしかつたことをおぼえていればそれでよいとおもう。一生けんめいに勉強し村の人のため、世の中の人のためにつくすような人になりたい。一生けんめいがんばろう。

俳壇

日俳中里支部

松風の聲して初茶釜　泉芳
岳と岳蟬き合う大日拝す　泉芳
追へ羽根の此日に病者華やぎて　秋陽
秋刀魚買う父は工衣の肩いからし　秋陽
造花の神の駄作が初鏡　桂仙
初詣神酒酌む集へ燭よるゝ　桂仙
寸暇なき生活初湯にしわのばし　一撃
來る貌の此んな明るき私の内　一撃

おかいれ

公民館では昔からこの地方に傳わつているいろいろな行事が最近急速になくなつているのでこれらの採集に努めているが、その一つがこの「おかいれ」である。

これは映画に撮つたので、近く皆さんの前に披露されることになるが、家を新築し、その家がためのときに家の安泰と、福の神を招き入れる意から行われるもので、神主のオハライとミソギに續いて別掲寫眞のような人足により、戌亥の方（北西）から末申の方（南西）辰巳の方（東南）へと廻り西の方（西）の寢間に次のようなことを面白おかしく唱い乍ら入るのである。

一、（わくわく）＝味噌から水までわくわく
（まねき人）＝まねきます〳〵
（神主）＝おかいれヨイトコショ
（人足）万歳楽はドツシドシ
八万神の神はわく〳〵
（以下同じ）
三、福の神がわく〳〵
四、俵叺がわく〳〵
五、孫子澤山わく〳〵

これは本來、千年も万年も生きたい思いで祝う。全くの百薬の長なのだからあまり合成酒なんかで代用したくない。本式に調えれば高價だろうが。

そう云えば、ひどく値の高い數の子。

子孫繁昌の願いをかみしめるのは、家族計画の世に似合わなくなつたので高くてもかまわない。一切十圓位かと涙こぼして食べる程のことは無さそうだ。

考えて見ると、眞黒になつてマメで働くように黒豆、よろこぶ昆布巻、田作りの小魚炒り。

こうゆう御馳走を考え出した人が今の世の正月の迎え方を見てさぞ歎くだろう。働く人の生きる思いがこもつていたお正月を、今も傳えている家庭があつたらまことにめでたい。働く事が楽しくなる正月を味う爲に思い新しく祖先の殘したならわしを眺め返して見ませんか。

編集後記 おめでとうございます。ことしこそ(1)ためになる(2)親しみやすい(3)讀みやすい(4)そして立派な「たより」にするために、一層努力したいと思います。御支援下さい。

年の始めに当つて思う

教育長　阿部英一

新年を迎えて何とはなしに新しいすがすがしい氣分になり、めでたいという気持になることは今でも若い時と變りはない。十二ヵ月の間には必ず廻つて來る正月何十回も繰り返し迎える新年であつても、やつぱり胸が躍り、心が改まる。今年もどうかお互いが仕合せで心豊かに楽しく暮らせるように、殊に子供たちが健康ですくすくと伸びていくようにと希うものである。これにつけて思うことは私共おとなが子供等から信用して貰える人でありたいことである。

汽車の中の團体客などが酒氣を帯びて目に余る言行を平気で衆人の前にさらす有様、これを目の前に見る中學生や高校生などはどんな印象を受けるであろうか。こうした醜い現象は社會の到るところに露呈されているが、こういうことが度かさなることによつて「おとなという者は出鱈目だ信用が出來ない者だ」と不信感が子供等の心底に根強く刻まれるのである。

子供等は絶えず自分の心や行動についてモデルを求めているというが、それが年少である程身近かなおとなにこれを求めるのであるから学校や家庭に信用が置けないと言うことになつたら、子供等は全くさびしいものであろうと思われる。そこで今の子供にとつて不幸なことの一つは子供の求めるはつきりとした「こんな人になつて見たい」というような人間のモデルが乏しいということではあるまいかと思う。力道山や美空ひばり位が關の山では心細いことである。もつと大きく有力な教育的社會的な存在がほしいのである。

此の様な点では沖縄の子供は本富に幸福であるという。或る人の沖縄視察談であるが注目に値すると思う。

沖縄は米國の軍事基地で日本の領土であり乍ら本土の統治を受け得ないみじめなところであつてその縣民こそ実に悲惨であり、生活も苦しいのであるが、子供等は生き甲斐を感じているのでかえつて本土の子供の方が気の毒だと云うのである。沖縄の子供は何時も心の中におとなと協力していつかは本土に復帰したいという切實の希望を持つており、自分達は「日本民族である」という強い意識をしつかりと持つているので、少しも心に不安がないというのである。それと最も大切なことはあの戦争の真最中に於て、本土に偉い振舞をした人をはつきり見せつけられて、社會的の地位や學歴などが人間的價値にはあまり大切な要件でないということがいやでも應なしに知らされたことである。従つて死を覚悟で單身赴任した当時の島田縣知事が地下足袋に詰えりの国民服に縣知事の腕章を附けて終始住民の爲に盡して遂に玉碎したことは精神的の支柱として子供等の心に生きている。又最後まで生徒と苦労を共にして玉碎の日生徒と共に自決した健兒部隊の野田校長も「偉い先生」として精神的には今尚生きているモデルである。反對に要領よく立廻つた卑い地位にあるおとなもかなり澤山あつて「くだらぬ人間」の標本として子供等の心の中に生きている。此の両面のモデルがはつきりと映されているから、子供等は常に心の中に目標があり、努力が生じて來て生き甲斐を感じ幸福であるというのである。私共はこうしたモデルとまではいかなくともともかく子供等から或る程度の信用を受ける位に勉強もし精進したいものである。

村長選挙

高橋幸作氏当選

村長選挙は荒屋土建請負業高橋幸作氏(49)(無)と、同部落農業小林豊政氏(34)(社)により進められ、二十五日村内十ヵ所において一齊に村民の審判が下され、投票率七九・四一%の成績で即日開票の結果次の得票を以つて高橋幸作氏が當選した。

當選　高橋　幸作　二、七一〇票

次点　小林　豊政　一、五三三票

農業協同組合

中里村組合長　廣田　要吉
専務　上原　國一
總務　村山　正二郎
外理事職員一同

中里村倉俣組合長　高橋　熊藏
専務　藤ノ木　利一
主任　鈴木　佐十郎
外理事職員一同

田沢開拓組合長服部　佐一
副組合長外理事職員一同

中里村議会

議長　廣田　重政
副議長　高橋　門吉
議員　井ノ川　三之助
小巻　澤　繁
阿部　友重
南雲　長一
南雲　仁吉
山本　善信
鈴木　一郎
井ノ川　佐平治
高橋　源平
服部　安治
樋口　順之
山田　金松
上原　貞策
齊藤　喜政治
藤田　宇一
大口　彌太郎
山田　太一郎
南雲　吉之助
樋口　善太郎
藤ノ木　利一
井ノ川　三平
鈴木　謙吉
阿部　一郎
川田　朝一
廣田　孝
中島　喜藏
樋口　迪治
柳島　良作
樋口　猛
看護婦　樋口ミサオ
書記　桑原　政義

（議席順）

中里村国民健康保険

中里村長　高橋　幸作
書記　上原　隆平
井ノ川　稔
樋口ヨリ
保健婦　村山　しづな
桑原　しずの
井ノ山　たみ

村営倉俣診療所

医師　中村　章人

正月への随想

富永　ひさお

正月、この月程様々な人間の種々な祈りを集めた月はない。

僕のような毎日が單調で無欲で、年歳不惑に到し、時にはその存在價値が危ぶまれる者でさい、正月には性懲りもなく夢想し、今年こそは……と秘かに心に期するのであつてみれば、世の人の強気、弱氣、色氣、食気、金氣、名氣、物氣、そんなものゝ、どれか一つを持ち合せている者に取つてその祈りや人に語らずともそれだけに切なるものがあるに相違ない。

まして十二月という借金取り攻勢に、さんざ悩まされ續けて迎えた正月であつてみれば「俺は今更正月だからといつて、一年の計を元旦に立てられるかてんだ」とわめく若者達こそ心の奥深く祈らずにはいられない。

このことは人間が時間とともに生活してゆく限り、逃れる事の出來ない宿命でありましよう。

そして皆が皆今年こそは……今年こそは……と涙の出るような性懲もなく年を積み重ねてゆかねばならない。

僕が神さまであつたら恐らく大聲を上げてそのおろかさを笑い、そして「馬鹿野郎」とまで云わないまでもなんとか人間共を叱咤激勵するだろう。

所が神はだまつて人間共を見ているだけ、そして長い本富に長い時間を人間共に與えて、その集積を人間共に振り返らせて見せる。

それが神と云われるものだ。そしてそれが正月といわれるものだ。

この正月に、この正月に感謝しよう。そして心靜かに、ぬくもれる炬燵に除夜の鐘を聞きながら過ぎし年を憶おう。そしてその内省の涙滴けきが中に新しき手を想おう。

楽しきかな、よきかな人生、そんな言葉さえ生れるではないか。

これが例えその時なりになつてしまおうとも、神がある限り正月がある限り、そして人間に内省がある限り眞理と美は失われないではないか。

若者は若者の力を輝かしき未來に力強く計畫よう。そしてそれがたとえ百姓という大工という、定まつたいや一生そうである事が判つている輪廻の中であつても、なおあきらめきれない若さがどこかで祈願し、秘やかな期待が血潮に渦巻くのです未來に。

年老いた者は輝かしかつた過去を語るもよい。又幾時もない明日を靜かに生きるもよい。そして若者のために額に刻まれたシワを、ふしくれだつた掌を靜かに語るのです。

そこには雪國特有の冬の炬燵が暖かく待つているではないか。

そして人々は新しき年にこよない祈願と期待をかけるのです。たとえ戸外に吹雪が激しく行手をさえぎろうとも。

中里村役場

村長　高橋　幸作
助役　瀧沢　謙治
收入役　廣田　富左ェ門
總務主事　富井　喜重
倉俣、貝野支所長　瀧沢　謙治
外吏員一同

中里村農業委員会

主任技師　山家　庚一
技師　高井　三郎
〃　高野　林平
〃　永井　秀雄

中部農業改良普及事務所

會長　廣田　要吉
副會長　齊藤　政治
農地主事　服部　輝雄

中里村教育委員会

委員長職務代理者　村山　軍英
委員　桑原　秀雄
〃　樋口　與三郎
教育長　阿部　英一
書記　小柳　定夫
〃　大島　カツミ

中里村公民館

館長　大島　孝平
副館長　板橋　龜治
〃　高橋　寅次

主事　齋藤　大藏
狩野　利雄
書記　村田　博
山本　茂穂
樋口　信治

民生常務委員　大島　孝平
消防團長　鈴木国一郎
田沢中學校長　板橋　龜治
倉俣中學校長　高橋　寅次
貝野中學校長　徳永　恭三
田沢小學校長　狩野　利雄
南道山小学校長　田中富七松
倉俣小學校長　高橋　英男
貝野小學校長　石澤　藤榮
十高田澤分校主任　關口　義平
青年會長　關谷　慈源
連合婦人會長　高橋　敏子
連合PTA會長　藤田　五郎
田澤地区婦人會長　村田　ヨシ
倉俣地区婦人会長　高橋　ユキノ
貝野地區婦人会長　阿部　キヨ
南道山地區婦人會長　樋口　チサ
清津峡地區婦人會長　山本　トヨ
南工會長　樋口保太郎
田澤小中PTA會長　上村　賢造
倉俣校PTA會長　高橋　源平
南道山校PTA會長　樋口與三郎
貝野小PTA會長　田中　總平
清津峡PTA會長　村山　一
土倉校PTA会長　山田　金松
田澤中PTA會長　藤田　五郎
貝野中PTA會長　村山　正也
連合遺族會長　大島　孝平
田澤地區遺族會長　小柳　善作
倉俣地區遺族会長　岡村　弘美
貝野地區遺族會長　大懸　齊藤
田澤郵便局長　清瀧　勝藏
倉俣〃　高橋　寂
貝野〃　古澤　重
越後田澤驛長　前澤　郁三
縣養魚場長　村田　秀吉
農林省事務所長水野　千里
桔梗原土地改良區理事長　廣田　要吉
苗木組合組合長村山　軍行
緑会々長　樋口　キイ
農林省食糧事務所出張所長　柳　行雄
田澤駐在巡査　喜多　亀治
倉俣駐在巡査　山岸　正美
貝野駐在巡査　野上　暢一
營林署田澤地區擔当員　小泉　章三
營林署倉俣地區擔當員　竹原　廣英
貝野農業協同組合長　羽鳥　隆吉
傷痍軍人会長　上原　国一
身体障害者協議会長　服部　武夫
（順位不同）